

「結成6年目、さらに『革新懇らしさ』の運動をすすめよう！」

私たち大阪損保革新懇は、本日結成満5周年を迎えました。

この5年間、損害保険産業は、「市場原理」万能主義のもとで企業の大規模合併・統合が相次ぎ、そこで働く私たちも激動、激変の状況に直面してきました。

私たちは、「平和・民主主義・生活向上」の革新三目標と「21世紀の損害保険産業のあり様」を問いかけて革新懇運動に参加しました。そして私たちの主張は、

① 損害保険産業は、世界の平和や日本経済の健全な発展と国民生活の向上と共に成長し、この発展と向上を支える産業であること。

② 産業の精神である「一人は万人のために、万人は一人のために」を原点に、社会性公共性を発揮する産業として発展し、国民生活の安全と安心に役立つこと。

③ そこで働く者の願いは、損害保険産業の誇りをもって働きがいのある生活と人生を送ることです。

この間、私たちは各界・各分野で活躍されている講師を招いての講演会、シンポジウムや集いを開催し、ニュースの発行・ホームページを開設し情報の発信と共有をおこなってきました。

私たちの主張と提言そして運動を通して、立場の違いをこえた多くの幅広い人々から賛同と共感が寄せられ、多くの感動、勇気、元気を分かち合うことができました。

あらためて私たちは、「職場に根ざした革新懇の存在」と「仲間の良心」の拠り所として大阪損保革新懇のさらなる成長をめざします。

今、私たちが直面している情勢は、「小泉構造改革」によって国民の暮らしと日本経済はかつてない危機にさらされ、長引く不況と失業・雇用不安などで国民にたえがたい「痛み」を押し付けようとしています。

アメリカのイラク戦争によって世界の平和に困難が持ち込まれ、これに対し小泉自民連立内閣は、戦後はじめて自衛隊を海外へ派兵しようとしています。しかも自民党結党50周年までに「改憲案をまとめる」と公言しています。平和憲法とりわけ憲法第9条は日本と日本国民が世界に誇るべきものです。

私たちは憲法改悪を許すことはできません。

今、金融・損害保険産業は、巨大損保会社が生まれ保険産業の本来の役割を發揮せず、際限のない過当競争とシェア競争に明け暮れ、大規模なリストラ・人減らしを進めています。その結果、職場では賃金不払違法残業(サービズ残業)・長時間労働・休日出勤などが恒常化し、賃金合理化も重なり、モラルの低下を含め私たちの働く条件は著しく悪化しています。

私たちは、このような産業の状況に深い憂慮と不安を持ち、大企業の社会的責任と働くルールの確立を強く求めています。

社会的役割を發揮しようとせず、人間を大切にすることを忘れた産業・企業に本当の未来はあるのでしょうか。

「働いて良かった」と言える産業・会社、「生きていて良かった」と言える社会・人生を築いていくために、ともに手を取り合い、力をあわせて展望のある未来を切り開いてゆこうではありませんか。

私たち大阪損保革新懇は、結成6年目さらに革新懇らしさの運動をすすめ、一人でも多くの方が参加されるようにみんなで奮闘していこうではありませんか。

2003年10月15日